令和６年度　第１回　生駒市子ども・子育て会議　会議録（要旨）

日　　　時	令和６年5月２１日（火）　９時３０分～
場　　　所	セラビーいこま　３階　研修室
出 席 委 員	清水会長、三木(美)副会長、岩本委員、山田委員、畠山委員、谷猪委員、 辻中委員、末松委員、今川委員、嬉野委員
事 務 局	吉村子育て健康部部長、岡村子育て健康部次長、松田教育部次長 子育て支援総合センター　若狭所長、 こども政策課　澤辺主幹、土井田係員、竹田係員 幼保こども園課　大畑課長、牧野指導主事、長崎指導主事 こども園準備室　小林室長 児童総務課　武元課長 健康課　渋谷課長
会議の公開	公開
傍　聴　者	０名

１．開会

２．委員紹介

３．案件

(1)　会長・副会長の選任について

(2)　生駒市こども計画(※仮称)、及び第３期生駒市子ども・子育て支援事業計画について（諮問）

(3)　第３期生駒市子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート結果について

(4)　令和５年度地域型保育施設整備・運営事業者の選定結果の報告、及び令和６年度の同事業者選定について

(1)　会長・副会長の選任について

（事務局より説明）

委員
　清水委員を会長に推薦させていただきたい。

（異議なし）

事務局
　清水委員、よろしくお願いします。副会長は委員の中から会長が指名することとなっている。ご指名よろしくお願いいたします。

会長
　三木(美)委員を指名させていただきたい。

（異議なし）

(2)　生駒市こども計画(※仮称)、及び第３期生駒市子ども・子育て支援事業計画について（諮問）

①　諮問

②　生駒市こども計画(※仮称)、及び第３期生駒市子ども・子育て支援事業計画について

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）
会長
　事務局の説明について、意見や質問はあるか。理念については、今回の会議で決定するものではない。意見をいただき、膨らませていきたい。

委員
　計画を立てた後の目的がもう少し明確にできるとよい。「こどもまんなか社会」とあるが、こどもが本計画を認知するか、理解可能であるかについて懸念している。例えば、学校で本計画について学ぶ機会を設け、こどもが親に学んだことを伝えることで親の理解も深まるだろう。
　親世代には、パブリックコメント等の際に、SNS なども活用し、周知に努めてほしい。

事務局
　本計画では、子ども・子育て会議としてパブリックコメントを行うため、子ども・子育て会議でのご意見を踏まえて実施し、たくさんの方から意見をいただけるようにしたい。
　今回は特に、こどもの意見を大切にするため、こどもから意見を募れるよう平易な表現による計画の概要版のようなものを制作できたらと考えている。
　従前の子ども・子育て支援事業計画では、子育て当事者の支援をメインに議論していたが、今回はこども計画となるため、こどもからも意見を聴取することにも重きを置いている。

事務局
　第３次教育大綱の見直しも実施しており、先日までパブリックコメントも募集していた。大綱の策定にあたり、こどもへのアンケート調査も実施した。策定された際には授業に取り入れ学校での周知・活用を考えていきたい。これに並行してこども計画も動いていけるとよい。

委員
　資料の計画の推進体制・策定スケジュールによると、計画の開始が、来年４月となっているが、これは決定事項か。
　４月までに計画自体の策定は可能と考えるが、推進体制が重要となる。

事務局
　子ども・子育て支援事業計画について現行計画が令和７年の３月までとなる。教育・保育量の確保を鑑み、第３期計画は令和７年４月からとなる。こども計画に第３期計画を包含する形で計画を策定したいと考えているため、いずれの計画についても令和７年３月までに策定するスケジュールで進めたい。
　推進体制も計画に基づき、庁内の会議体を活用しながら実効性を確保していきたい。

会長
　こども計画の体系・展開について、乳児期、幼児期にも精神的支援を入れていただきたい。保育所保育指針の精神的発達に関する視点が乳児にも入っており、支援は可能と思われる。また、幼児期の精神的な支援の必要性は、保育所保育指針の養護の部分として入ってくる。こどもの情緒の安定を図りつつ、情緒を伸ばし、支えていくために乳幼児期の精神的支援は必要と思われる。

副会長
　同図について、乳幼児期以外に○がない部分があるがなぜか。

事務局
　現在、国・県・市・民間等の支援について、取組みの状況の整理を進めているところである。そのなかで、支援が薄くなっている部分を見つけ、今回のようなご意見を踏まえながら、修正していきたい。

委員
　社会的養育の現場では、こどもアドボカシーといって、施設に入所しているこどもや児童相談所で一時保護されているこどもに対し、現場の職員や児童相談所の職員とは異なる人が意見を聞きに来ることがある。同様にその他の子どもについても、第三者がこどもの意見を聞くことが重要であると思うが、そのためには聞き手のスキルやノウハウも必要となる。こどもたちの支援のためには人材育成が非常に重要である。行政職員がスキルを向上し継続的にこどもを支援していくためにも、同じ職場で長く働けるようにするなど、長期的な視点での取り組みを進めてほしい。
　また、理念のキーワードで使用されるのは、イメージのよい言葉であるが、そうした言葉の対面にある現実も併せて考える視点も必要ではないか。

事務局

こどもが社会参画していくにあたり、自分の意思を表明する機会が少ないという現状がある。今回こども計画を策定するにあたり、こどもの意見に耳を傾け、施策に反映させていくことが大きな取組みと考えている。川西市の子どもの人権オンブズパーソンの取組みのように、市町村で実施されているアドボカシー制度について調査し活用方法を検討していきたいと考えている。

アドボカシー制度以外にもこどもの声を発信する仕組み作りも今後検討し、今回のこども計画にも盛り込みたい。

こどもを支える大人への継続的な支援も課題として検討したい。

委員

こども主体の保育を進めているが、研修などに参加していると、こどもたちが自分の意見を言えるような主体的な保育について、まだ模索している園も多い様子であり、確立できていないと聞いている。保育士がこどもの意見を否定せず受けとめるという姿勢が重要だと感じた。保育園・幼稚園でこどもがもっと自分の意見を言えるようなテーマなど、保育士等が勉強する必要があると感じた。保育園・幼稚園は、こどもの土台をつくる重要な役割を担っていると感じた。

委員

こども計画について、どのように実現するかが大変だと思われる。こどもを中心に据える視点は大切である。一方で、保護者への支援も大切である。家庭や保護者は、こどもたちの育ちにとって重要な位置を占めているが、保護者が長いスパンの中でどのように子育てすればよいかまで理解しておらず、その場限りの点の子育てになっているのではないかと感じる。幼稚園として、その点がどのようにつながっていくかを保護者に伝えることにより、安定した子育てがうまれると感じる。

１歳から３歳までは家庭という小さい社会で育ってきた中で、幼稚園に入園して集団になることのイメージがつきづらい保護者も多い。家庭では問題ないが、集団の中では問題があることもある。発達障がいなどの判断が難しい時期でもあり、保護者に対しての伝え方や支援が難しい。

また、これらと関連して、幼保小接続の取り組みも重要である。幼稚園の先生と小学校の先生の交流が少ないために、保幼小接続がうまくいっていない側面もあるのではないか。幼稚園は小学校の見学に行くが、小学校の先生は幼稚園に見学に来ることがないため、幼稚園でどのような教育をしているか十分に知らないと思われる。

こどもを中心に据え、真にこどものことを考えていければよいと思う。

委員

働きながら保育園を利用する場合、保育園に頼りすぎていると感じることもある。こどもとの関わりについて先生に都度相談もするが、時間的な制約などで余裕がない場合もある。こどもとの関わりについて悩んでいる親も多いので、親がどのようにこどもと関わったらよいか、親自身が学ぶ場や関わり合いの場があるとよい。すべてを保育の現場や市にお願いするのではなく、当事者が自分のこととして感じられるような支援があるとよりよい。

会長
　どのように機会を作るかについては模索が必要であるが、計画にも盛り込んでいただけると今後につながる。

事務局
　庁内のヒアリングをしている中で、親もこどもとの関わり方に悩んでいることが多いと感じている。現在も、市で親の学びの支援として講座も開催しているが、切れ目のないサポートはこども施策として必要であり、親がこどもとどう関わっていくかについてサポートできたらよいと考えている。

委員
　ボランティアで子育て支援をしている。ボランティアなので、難しい意見は出せない点を理解いただきたい。
　集まって、母親の話を聞いたり、親とこどもに楽しく過ごしていただくことを考えて活動している。コロナ禍以降、人数制限をしており、来ても参加いただけない保護者もいたが、今年度から参加人数枠が増えるため解消されると思われる。

会長
　こどもと一緒に楽しく過ごせる場所がたくさん増えれば、身体的、精神的、社会的支援につながる。また、ボランティアだからこそ、要望をいただきたい。違う視点から意見していただくことが重要であるため、忌憚のない意見をお願いしたい。

委員
　保育園は朝から終日稼働しているが、幼稚園は、９時～14 時などが基本である。幼稚園以外の時間は、保護者が家で担っており、そこで出る悩みを相談する場がない。また、公園などにも遊びに行きにくいという声も聞いている。他の親とどう交流すればよいかわからない保護者もおり、親のコミュニケーション能力不足という問題もあり、それはこどもにも影響するといえる。幼稚園のこどもや保育園に行っていないこどもをどのように育てるかがこれから先重要なことになる。
　幼稚園に預けている親も働いている人が多い。預かり保育を充実させることができれば、自宅の近くにこどもを預けることが可能となる。現在ある施設の活用の仕方を考えたい。特に、生駒市の幼稚園は小学校の近くにあるので、どのように活用できるか考えていきたい。
　認可外の保育施設では、十分な園庭もないところもある。広い園庭で遊んできたこどもとそうでないこどもが、小学校以降の育ちではどうなるか。そのようなことも含め、こどもが育つ環境は大人しか考えられない問題であるので、市でも考えてほしい。

事務局
　幼稚園のあり方について、園児数が急減している公立園もサービス、保育の提供の仕方を考える時期にきている。仕事をされている保護者がこどもたちと関わる大切な時間を過ごせるよう、支援していきたい。
　地域の子育て支援拠点や子育ての悩みを聞く場は事業として存在するが、国の補助を受ける際の仕組みの大枠が決まっており活用が難しい。人員不足で対応ができていない部分もある。制度ではない別のボランティアなどの仕組みについても意見をいただき、こども計画に反映していきたい。

委員

現在、民生委員・児童委員として活動している中で、保育士不足を感じている。小学校の教師も不足しており、まずはこどもを支える大人の支援が必要である。

主任児童委員制度で県でもこどもにかかわる取組みを考えようとしている。市の各地域でも就園前の親子の集まる事業があるようだが、最近参加者が急減している。単発で開催しているイベントがこどもの目に留まるよう周知方法を考える必要がある。

学校も地域と共に、と活動しており保護者との意見交換の場、保護者が肩の力を抜ける場も大切にしていきたいと考えている。

委員

大学生なので、計画について意見を述べるのは難しいが、いま教育に関わっている大人だけで解決できない問題を、高校生、大学生などが解決できることもあると思う。今回の計画にも良い影響を与えることができるかもしれない。

(3)　第３期生駒市子ども・子育て支援事業計画策定に係るアンケート結果について

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

委員

４月から第２子の保育料が無償になったことを認識していない保護者も多かった。３月８日までであった調査がもう少し後に実施されていたら、満足度が上がった可能性がある。

委員

学童を利用していないこどもはどう過ごしているか。学童に通うこどもよりも、家でこどもだけで過ごしている家庭の方が多いのではないか。ボランティアのサービスなどもあるが、それすら利用していない家庭もあるだろう。何かあった場合、小学生のこどもだけでは判断が難しいこともある。今後働く保護者が増えたときどうしていくのか。施設や学童を利用していない理由が気になる。

委員

学校から帰ったこどもを祖父母が見ている例も多く、自分もそうであった。祖父母がどのように子育てに関わっているかがわかるとよい。

事務局

ご意見のように祖父母に見てもらっている例もあり、そのほか、週５日ではないものの地域型のスポーツクラブ・習い事に通わせている例もある。

委員

アンケート結果によると、核家族家庭が多いとある。こどもを中心に考えるのであれば、核家族でありかつスポーツクラブなどにも通っていない取り残されたこどもをどのようにしていくか、考えてもよいのではないか。

副会長

アンケート未回答の方など、アンケートに反映されていない、行き場のないこどもの存在があるのではないか。アンケート結果を深く読む必要があると感じた。

委員

結果概要 14 ページの放課後児童クラブについて、学童を楽しくないと感じているこどもが２割程度おり、多いと感じた。

学校が楽しいかどうかという設問があった場合、楽しくないと回答するこどもと上記の２割が重複すると、朝から夜まで楽しくない時間を過ごしており問題であると思う。

委員

学童の利用について、仕事を持つ保護者が多く、定員の関係で学童に入れないこどもが多い。学童保育の先生の不足もある。費用を問題とする保護者も存在する。場所と人が足りないことが課題であり、それを鑑みて居場所づくりを進めてほしい。

また、小学４年生以上になると、こどもたちが学童や放課後子ども教室に行きたがらなくなるようだ。こどもたちが楽しく、怪我無く安全に過ごせるよう、職員のスキルアップも考えていく必要がある。

こどもは若者がいると喜ぶので、学生など若者の力が必要であると感じる。

事務局

学童が広がってきているのは事実であるが、現状待機児童は発生していない。

学童を利用していないこどもについての懸念として経済的なことの意見があがったが、

経済的に厳しい場合は通所費助成もある。制度を活用いただくよう案内しているところである。

事務局

学童を活用していただくために指導員のスキルアップは必要である。また、学童は、保護者、指導員、市の三者で構成する運営協議会で運営しているが限界がある。人員確保の難しさもある。そのため、民間学童の誘致も図っているところである。官民連携してこどもの見守りをしっかり行っていきたい。

事務局

先ほどご意見のあった、学校が楽しいかという問いに対するこどもの回答として、令和５年の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか。」という設問の結果をみると、小学校６年生のみの回答のため参考であるが、全体で 17％くらいが楽しいと答えていない。高学年になると学童の参加率が低くなることもある。他市では、楽しくないということで早期に辞めてしまうということもあるようだ。

結果概要 15 ページを参照すると、生駒市内にあればよい居場所として、こどもだけで安心して遊べる場所の希望が多く、どのように作っていくか行政としても検討していく必要がある。

会長

施策にどのように反映していくかという視点から結果を見ていただきたい。

例えば、結果概要４ページで幼稚園の預かり希望が多くなっているが、預かり保育をどう充実させていくかなど。

また、クロス集計も幅広くやるとよい。

例えば、回答数が少ないので難しいかもしれないが、14 ページの放課後児童クラブ、放課後子ども教室の感想についての「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答したこどもと、「楽しくない」「あまり楽しくない」と回答したこどもについて、次ページの生駒市にあればよい居場所の結果をクロス集計してみてもよい。

子育てをするうえでの心配や悩みと、父親の育児休業取得の有無とをクロス集計すると、父親の育児参画と子育ての心配・悩みとの関連がみえるかもしれない。

また、前回の調査と比較し、変化を見ると、施策の評価になるかもしれない。

集計の際は、属性だけでなく、施策などで変えていける可能性があるものを軸に集計するとよいと考える。

委員

アンケート回収率は高いと思われるが、一方、未回答についても未就学３割程度、小学生４割程度と軽視できない数字であると感じる。未回収の中には、貧困、ネグレクト、ヤングケアラーの家庭が存在していると想像される。未回答の家庭には未回答である理由があり、見落とさないように配慮いただきたい。

ショートステイについては、受け入れが十分できていない面もあり、申し訳ないが、ショートステイの受け入れ態勢がしっかりと確立されると安心・安全につながると考える。

(4)　令和５年度地域型保育施設整備・運営事業者の選定結果の報告、及び令和６年度の同事業者選定について

（事務局より説明）

会長

令和６年度も地域型保育施設の実施事業者を募集するということでよろしいか。

（異議なし）

４．その他

５．閉会

（閉会）